

所 属 ・ 職 位	医学部医学科眼科学講座・教授	
氏 名	久保田 敏昭 (Kubota Toshiaki)	
取 得 学 位	医学博士、九州大学、1988年3月	
SDGs 目標	3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに	

研 究 分 野	眼科学
研究キーワード	緑内障、前房隅角、視神経、続発緑内障
研 究 内 容	落屑緑内障の病態と疾患感受性遺伝子多施設研究 落屑症候群に関連する遺伝子としてlysyl oxidase like-1 protein (LOXL1)遺伝子異常が報告されているが、人種によってリスクアレルに差が見られる。本研究では落屑症候群の原因遺伝子および遺伝子座をゲノムワイド関連解析(GWAS; genome-wide association study)法を用いてコホート研究にて決定する研究を行い、LOXL1異常の人種差のメカニズムも明らかにされた。また新たな疾患感受性遺伝子を発見し、これらの結果は医学のトップジャーナルに掲載された。 緑内障の疫学調査（久山町疫学研究） 福岡県久山町で行われているコホート疫学調査の久山町研究は開始されて60年になる。眼科検診は1998年から開始しており20年以上が経過した。緑内障検診は2017年に初めて九州大学、秋田大学、大分大学の協力で行った。緑内障有病率は7.6%であり、病型別では原発開放隅角緑内障5.8%、原発閉塞隅角緑内障0.7%、続発緑内障1.1%であった。多治見スタディと比較して高齢化率の上昇に比例して本邦の緑内障有病率が上がっていることを示した。 続発緑内障の原因となるウイルス眼感染症の起炎菌を同定するための網羅的PCR検査 前房水や硝子体などの眼科微量検体から多項目の眼感染症主要病原微生物を網羅的に検出できる眼感染症網羅的PCR検査の先進医療を開始し、保険収載を目指して全国の多施設研究を取りまとめている。マルチプレックス・リアルタイムPCRキット「Direct Strip PCR」は東京医科歯科大学、理化学研究所、大分大学で共同開発し、サイトメガロウイルス角膜炎内皮炎などのウイルス性続発緑内障の診断に貢献している。
研 究 業 績 ・ アピールポイント	主な論文 1. Nakano S, Kubota T, et al.: Multiplex solid-phase real-time polymerase chain reaction without DNA extraction: A rapid intraoperative diagnosis using microvolumes, Ophthalmology 2021 2. The Genetics of Exfoliation Syndrome (GenES) Partnership: Association of rare CYP39A1 variants with exfoliation syndrome involving the anterior chamber of the eye, JAMA 2021 3. Nakano S., Tomaru Y., Kubota T., et al.: A prospective multicenter study, American Journal of Ophthalmology 2020 4. Aung T, Kubota T, et al. Genetic association study of exfoliation syndrome identifies a protective rare variant at LOXL1 and five new susceptibility loci, Nature Genetics 2017 5. Aung T., Ozaki M., Kubota T., et al.: A common variant mapping to CACNA1A is associated with susceptibility to exfoliation syndrome, Nature Genetics 2015 学会関係: 日本眼科学会評議員、日本緑内障学会理事、第89回九州眼科学会会長（2019年5月31日～6月2日）、第31回日本緑内障学会会長（2020年10月2日～4日ライブ、11月5日～30日オンデマンド配信）、第76回日本臨床眼科学会（2022年10月13日～16日）特別講演予定